

第47回 KTSM 実技セミナーIn 函館 開催報告

(第3回 食事介助スキルアップセミナーin はこだて)

【開催目的】

高齢化に伴い、複数の原因による摂食嚥下障害を有する高齢者が多くなり、医療・介護・福祉での食事ケアの充実、技術の向上が必要とされている。今回食事支援に必要な、機能的器質的口腔ケア、安全安楽なポジショニング、早期経口摂取につなげるベッドサイドスクリーニング評価、安全で効率的、自立を目指した食事介助の基本的事項について、知識と技術を習得してもらうことを目的として開催した

【開催日時】

平成29年4月29日

1部：10:20～12:00

2部：13:30～17:30

【開催場所】

1部：函館市芸術ホール

2部：社会福祉法人函館厚生院 五稜郭病院

【プログラム】

1部

講演テーマ：口から食べる幸せをサポートする包括的スキル

2部

1. 全体講義：口から食べることをサポートするための包括的スキル
-KTバランスチャートの活用と支援-について
2. 演習①：口腔ケア
3. 演習②：ベッドサイドスクリーニング
4. 演習③：安全で効率的な食事介助方法
5. 演習④：車椅子での食事姿勢、自立を目指した食事介助技術

【アドバイザー】

| 氏名 | 所属 | 職種(摂食嚥下に関する資格) |
|-------|---|------------------------------|
| 竹市 美加 | NPO 法人口から食べる幸せを守る会副理事長 ナチュラルスマイルケア西宮北口歯科 | 摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者 |
| 金 志純 | 社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院 | 摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者 |
| 砂山 明子 | 東京都立駒込病院 | 摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者 |
| 仙石真由美 | 社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 | 皮膚排泄ケア認定看護師 |
| 渡邊 渉 | 社会福祉法人函館共愛会 共愛会病院 | 摂食・嚥下障害看護認定看護師 |

【セミナーの様子】

第1部

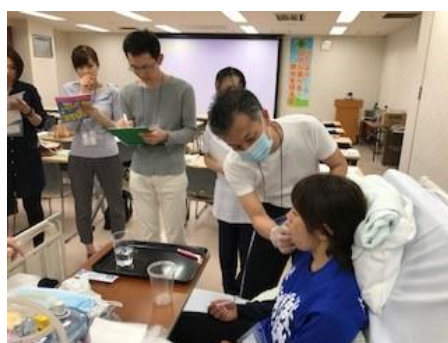


第2部

全体講義



演習①口腔ケア



参加者同士で口腔ケアを行った。器質的口腔ケア・機能的口腔ケアを行い、口腔ケア後には頬筋、口輪筋のマッサージ等の間接訓練も行った。また、ベッド上での口腔ケアでは、吸引付きくるリーナブラシを使用した洗浄も行った。

口腔ケアを始める前に脱感作を行い患者の不快感を減らす、介助者の手で患者の視線を塞がないようにケアをすることで快刺激でのケアをする、頭頂部を支えながら含嗽介助をして誤嚥防止をする等の実践を行った。

演習②ベッドサイドスクリーニング



頰部聴診法を併用した MWST、FT を実践した。
患者が最大の力を出せる状況にしてからのスクリーニング方法を実践した

演習③安全で効率的な食事介助方法



ベッド上のポジショニング、車椅子でのシーティング、テーブルの高さや距離、介助する時のスプーン操作を実践した。適切な介助をした時と、不適切な介助をした時の差も比較してもらい、適切な食事介助方法の必要性を実感した。
背抜き、足抜きをして安楽な状態で食事ができるようにする、自分が食事をする時と同じようにスプーンを患者の口へ運ぶようにする、肘関節の屈曲だけで捕食ができる位置に上肢を合わせる等、安楽な食事環境を提供できる食事介助技術を実践した

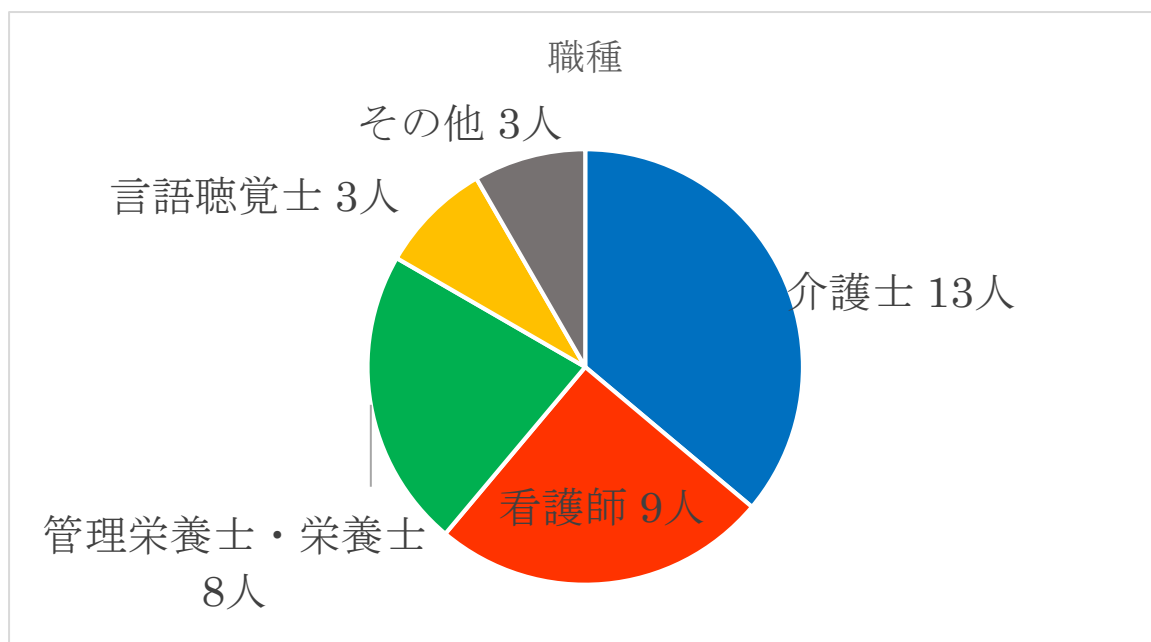
演習④車椅子での食事姿勢、自立を目指した食事介助技術



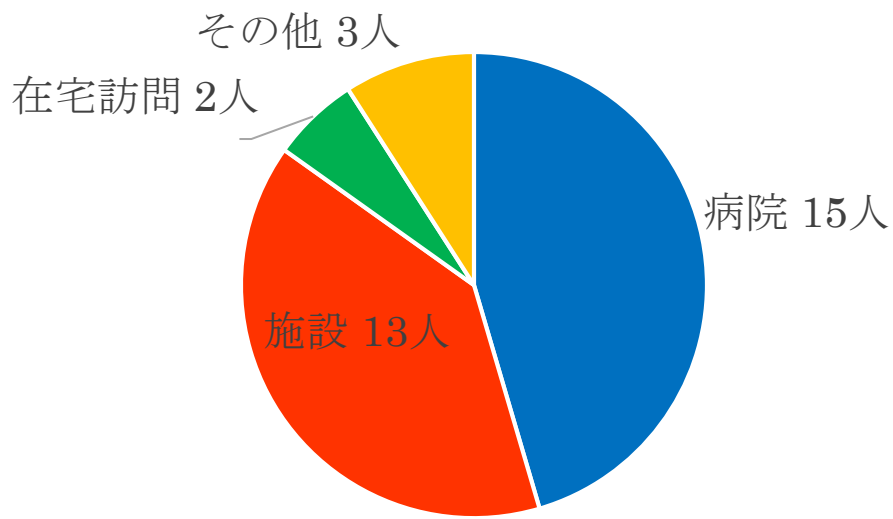
全介助から一部介助へ、セルフケアを拡大してもらうための食事介助技術を実践した。自力摂取ができるように、対象者ができない部分のみを手添えで介助して、セルフケアの拡大を目指した。

車椅子の食事姿勢では、通常の子椅子の状態は食事姿勢に適した構造になっていないため、バスタオル等を使用して座面・背面のたわみを補正した。又、足はフットサポートから降ろし床面に着け、床まで届かない時は足台を使用し足底を安定させた。

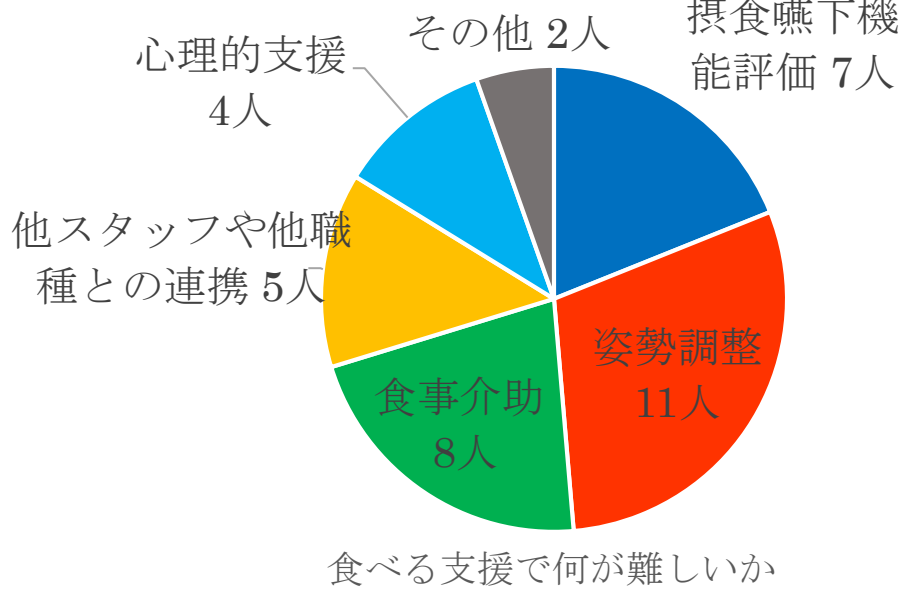
【アンケート結果】



勤務先



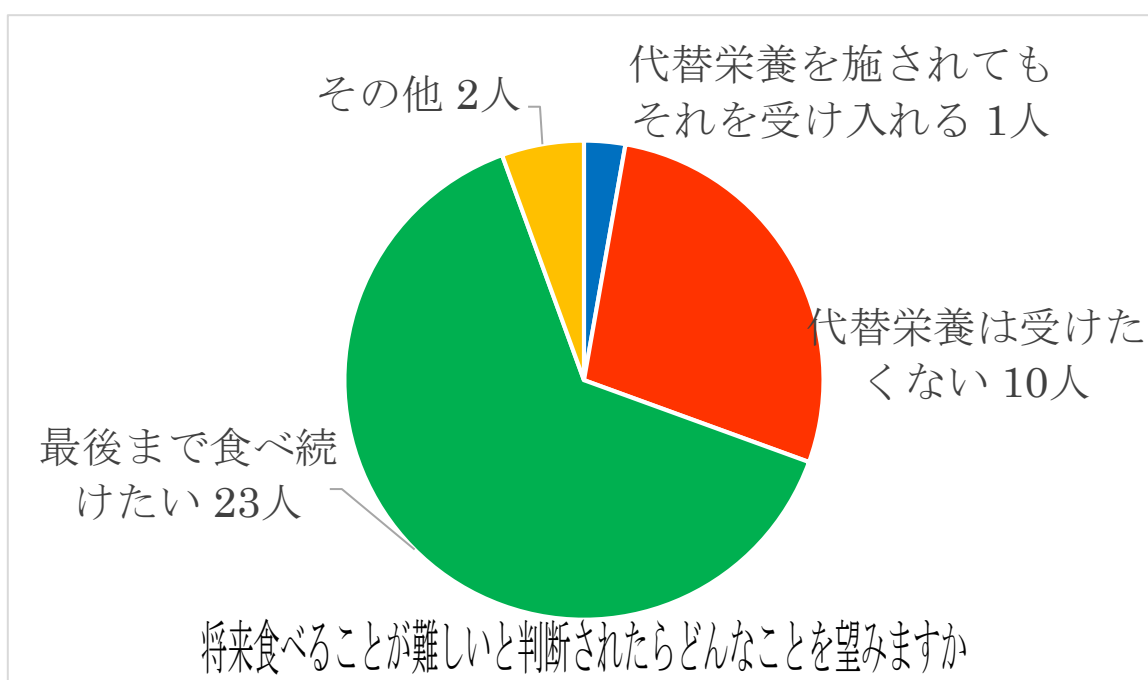
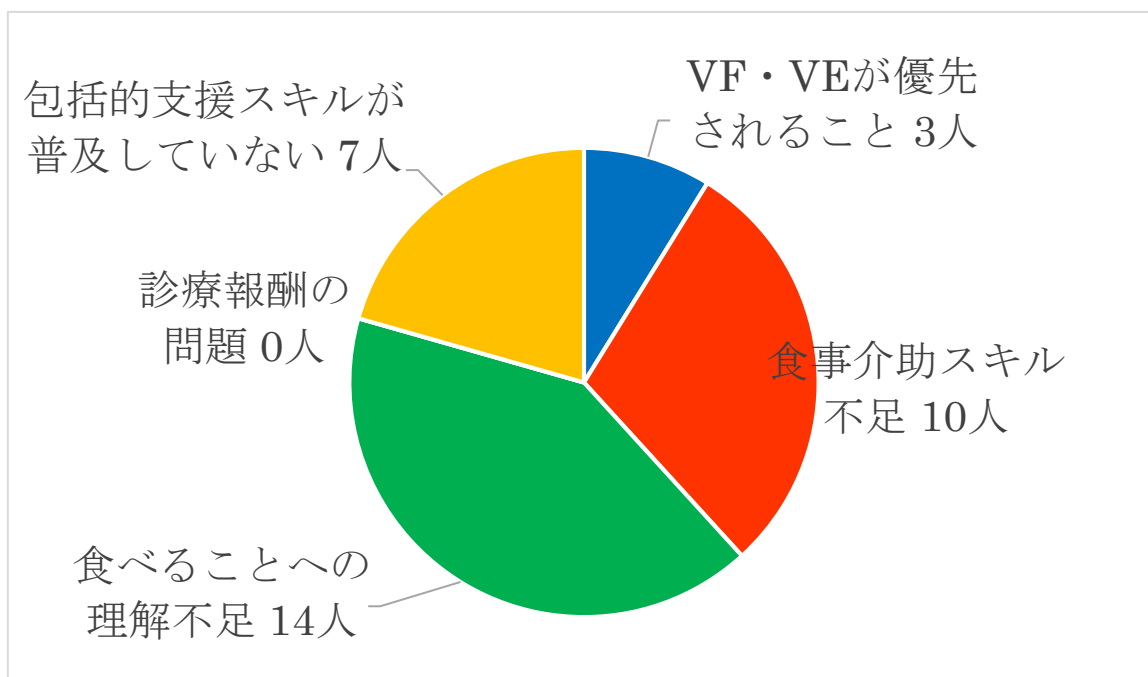
摂食嚥下機能評価 7人



セミナーの感想、自分を振り返って考えたこと

- ・毎日の仕事に役立ちとても勉強になりました。
 - ・改めて振り返った事や、新しく学べた事もあるのでポジショニングを力入れていきたい。
 - ・今日のセミナーに参加し、今まで自分が行っていた介助と比べて姿勢調整などの部分をどのようにしたらいいかなど丁寧に教えて頂きとても勉強になりました。これからに生かしていきたいと思います。
 - ・とても勉強になりました。
 - ・色々なことを学べて大変良かったです。
 - ・介助の仕方によって食べやすさが全く違うのだと思いました。
 - ・自分が介助を受ける側になって気付いた事が沢山あった。
 - ・介助の仕方は難しかったです。経験や練習が必要と感じました。
 - ・とても勉強になりました。ポジショニングは1枚のタオルでも十分に出来ることを知り職場でも実践したいです。
 - ・口の中にスプーンを入れた時の位置などしっかり学べて良かったです。
 - ・介助者のスキルによって、その方の食生活は全く違うものになるのだと改めて考えさせられた。
 - ・誤った食事介助をしていたことに気付きました。どうして不適切な介助であったという事も分かりやすく指導もらいとても楽しく内容のある講習でした
 - ・現病棟で実際に誤嚥性肺炎や食事介助を必要とする患者がおり、ムセたからといってすぐに食事を中断したり、食事前の姿勢調整に困難を感じていた。今回学んだことを明日から活かししっかりとアセスメントできる力を身につけていきたい
 - ・呼吸器内科勤務でありすぐに実践に移せるセミナーでした。患者のために必要なことをアセスメントし個別にあった援助に何が必要か確認できるセミナーでした
 - ・食事介助が技術として確立していて素晴らしいと思いました。今日はありがとうございました。
 - ・患者の負担が大きい食事介助をしてきていたのだと反省しました。
 - ・入居者さんの目線の大切さなど改めて知ることができて本当に良かったです。
 - ・実際に患者役を体験しポジショニングの大切さ、また背抜きや適切な姿勢の大切さを学んだ。もっと実践スキルを学び医療の専門家として口から食べる支援をしていきたい
 - ・ポジショニングの仕方が沢山あり勉強になりました。病棟でもバスタオルの使い方など出来ることはやってみたいと思いました
 - ・今まで不適切な食事介助をしてきたことに気が付きました。
 - ・基本を学ぶことが出来た。
 - ・知りたいこと、グループ分けが違っている気がした。
 - ・今までスクリーニングやポジショニングをやっていましたが患者さんの視点になるという重要性が分かりました。
- 介助者の介助方法1つでその患者さんの経口摂取の可能性が変わるんだなと実感しました。
- ・実に勉強になり、また日々の臨床の至らなさを実感致しました。
 - ・とても充実した内容で為になりました。やれることは沢山あると感じました。KTチャートを是非導入したいです。
 - ・患者さんが食事をする現場にいても今まで気づけなかった姿勢やポジショニングのことなどを知ることができました
 - ・実際に経験してみると難しかったです。
 - ・食事介助の方法や用具で全く違う事が分かり、今までの間違いを改めたいと思いました。
 - ・実践出来て良かったです。
 - ・本等で見ているのと実際行うのではこんなにも違うものかと思うと同時にとても勉強になりました。

当 NPO には「口から食べない・食べさせてあげたいけれど経口摂取を禁止されている、食べる支援をしてくれる人がいない」という相談メールが多く寄せられます。口から食べることを阻害している大きな要因は何だと思いますか？





ご参加頂いた皆様、五稜郭病院の皆様、座長を務めて頂きました岡田晋吾先生、道南言語聴覚士会、自立支援勉強会、函館市居宅介護支援事業所連絡協議会、株式会社クリニコ、フードケア、ラックヘルスケア株式会社、大塚製薬等、ご協力頂いた皆様、誠にありがとうございました